

ツバキを守って島おこし part2

～島の伝統文化の継承・発展～

○今江一詩 今江ほのか 澤田拓海 (東京都立大島高等学校農林科)



□ 背景・目的

本校椿園は2016年2月、国際ツバキ協会 (ICS) の国際優秀つばき園に認定された。認定後、「椿」とともに本校の活動も広く知られるようになった。伊豆大島の振興と、ツバキを活かしこれを島の伝統文化の継承と発展につなげるべく、以下の活動に取り組んでいる。



2017年1月 小池都知事来園



都立大島公園で出張椿ガイド

□ 椿園の活用

本校椿園には約380種類の園芸品種や原種のツバキがある。年間を通じての管理作業のほか、国内外から多くの来園者があり、折ごとにガイドツアーを実施している。

海外の方がお越しの際は、英語によるガイドも実施している。国内各地から日々多くのお客様がお越しになり、放課後のガイドも好評である。認定1周年にあたる2月26日には都立大島公園で出張ガイドを実施し、喜んでもらった。



生徒による椿ガイド



海外の方への椿ガイド

□ 椿油づくり

校内でヤブツバキの種を集め、伊豆大島の特産品である椿油を作っている。収穫したものを調整後、連携している地域の業者の工場に搬入し搾油をしてもらい、それにラベルを貼り販売をしている。島内外で販売し大変好評を得ている。昨シーズンは豊作で100キロ以上の種子を集めることができた。

また、辛みが強いことで知られる島唐辛子と合わせ、本校オリジナルの島高ラー油を製造している。



収穫後、調整した種子



島外での販売実習

□ 仙寿椿の取り組み

「仙寿椿」は、伊豆大島の岡田地区にあり、推定樹齢400年、「日本一の風格」と言われる、知る人ぞ知る古木である。私たちは、地域のNPOの方々と協力して、これを管理している。来歴や、樹高などを調査し昨年、町の保存樹木に指定された。日本つばき協会の優秀古木にも申請中で、大島の観光資源として活かすとともに、地域における様々な世代の協働の場にしていきたいと考えている。



古木「仙寿椿」



古木周辺の除草作業



地域の方と意見交換

□ ツバキで交流

今年1月、小池百合子都知事が本校椿園にお越しになり、私たちがご案内した。「東京の島には大島の椿のように、宝物がたくさんある」と褒めて頂けたので、ツバキの価値を伝えることができたと思っている。

2016年夏は、千葉敬愛学園高校理科研究部の皆さんと共同でツバキの収穫をするなど、ツバキを介して島外の高校・大学との交流をすることができた。現在、東京工業大学と一橋大学の研究グループの方々と連携し、椿の炭について共同研究を始めたところである。ツバキには人と人をつなぐ力があるのかもしれない。



都知事に説明する生徒



敬愛学園高校との交流

□ まとめと今後の課題

国際優秀つばき園認定後、大変多くのお客さまにお越しいただいている。しかし、観光客を増やすことだけが、私たちの目的ではない。大島を活性化させるためには、今後、観光以外の地場産業の発展にもつなげていくこと、それが重要だと考えている。

椿油、椿炭は大島の伝統的な特産品であり、両方とも大変質が良い事もわかっている。私たちはこれらを継承するとともに、新しい時代にあったものに発展させていけるよう、今後も挑戦を続けていく。



管理作業 (花後剪定) の様子



町役場で町長・副町長と意見交換

